

## 史跡 キウス周堤墓群

キウス周堤墓群（紀元前約 1,200 年）は、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）後半に遡るもので、札幌の南東方向に位置する千歳の森林地に位置しています。大きさは直径 30～75 メートルで、その配置は、かなりの計画が行われたうえで配置されたことを示唆しています。周堤は、先史時代の北部日本の集落における埋葬習慣を証明するものです。

この遺跡内、周堤墓のまわり、また一部の堤沿いには、小道が通っています。この周堤墓群と付近の遺跡からの出土品は、千歳市教育委員会埋蔵文化財センター [\[リンク\]](#) に展示されています。

### 大規模な周堤

北海道の一部、特にキウス周堤墓群が位置するこの場所では、地面を大きく円形に掘り、それを幅と高さが数 m の堤で囲むということが行われていました。考古学調査を行ったところ、これらが複数の共同体の共同墓地として機能していたことが示唆されました。キウス周堤墓群の中で最大級の 2 号周堤墓の直径は 73m あります。この周堤墓は、高さ 4m を超え、基部の厚みは 20m を超える堤で囲まれています。考古学者たちは、この周堤墓の建設には 25 人による作業で、およそ 4 か月を要したと推測しています。

9 基のキウス周堤墓のうち、7 基はまとまった場所にあり、その一部は堤を共有しています。各周堤墓の間には小道が見えます。堤は一部で低くなっており、個々の墓地への入口だった可能性を示しています。

### 考古学上の発見

幅広い調査と一部の発掘が 1960 年代に始まり、周堤墓群の中と堤の外周には墓穴があることが明らかになりました。1 号周堤墓の調査中に、地下 60cm のところに 5 つの墓穴が見つかり、うち 1 つには、立石があったことから、印が付けられた墓であったと考えられています。その他の周堤墓周辺と中にあった穴には、祭祀に使われていたと考えられる土偶の破片、円形の組石、赤い顔料の跡、および複雑な彫刻が施された磨製石器がありました。この石器は、何らかの儀式に使われたのかもしれませんが。

キウス周堤墓群の規模と、それを完成させるために必要だった作業には、特別の重要性があります。このような墓や、鷲ノ木 [\[リンク\]](#)（北海道）、大湯 [\[リンク\]](#)（秋田）、伊勢堂岱 [\[リンク\]](#)（秋田）、小牧野 [\[リンク\]](#)（青森）、および大森勝山 [\[リンク\]](#)（青森）の環状列石といった遺跡から、複雑な埋葬方法と、葬儀の重要性は、紀元前 2,000 年頃からますます顕著になっていったことが分かります。

### 展示されている埋蔵物

キウス周堤墓群や近くの他の遺跡からの、食事、陶器、石造、埋葬習慣といった縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の生活様式に焦点を当てた埋蔵物は、千歳埋蔵文化センター [\[リンク\]](#) で見ることができます。このセンターは、キウス周堤墓群から車で 10 分のところにあります。入館は無料です。情報の一部は英語でも提供されています。